

沈壽官氏講演会 「陶房雑話」



2019年9月11日(水) 14時～16時 (入場無料・予約不要・一般来場者歓迎)

東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム 1

講演者 沈壽官氏 (沈壽官窯十五代)

司会 外村大先生 (東京大学総合文化研究科教授・IHS)

16世紀末、豊臣秀吉が朝鮮に送った侵略者は、多くの朝鮮民衆を日本に連行しました。そのなかには技術を持ち、それを日本に伝えた人びとがいます。薩摩藩では、朝鮮から連れてきた陶工たちを、一定の場所に住まわせ、故郷の文化を保持させて、陶器を作らせました。これが、著名な「薩摩焼」です。

今回、お招きする15代沈壽官氏は、薩摩焼を代表する窯元の家生まれ、その伝統を守り、新たな作品を生み出しておられます。沈家の歴史や経験、ご自身のお仕事についてお話しいただき、現代社会が課題とする、多文化共生について、ともに考えていきたいと思っております。多くの方の参加を呼びかけます。

沈壽官 (ちん・じゅかん) : 陶芸家。昭和58年(1983年)早稲田大学を卒業、昭和63年(1988年)イタリア国立美術陶芸学校を修了。平成2年(1990年)大韓民国京畿道 金一萬土器工場(現五父子磁器)にてキムチ甕製作修業。平成11年(1999年)15代襲名。

主催：東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)」教育プロジェクトH「生命のポイエーシスと多文化共生のプラクシス」

問合せ：IHS・教育プロジェクトH project-h@ihs.c.u-tokyo.ac.jp